

実践事例Ⅱ**「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 Vol.2**
～「見方・考え方」を働きかせ、言語活動を通して、「深い学び」を実現するために～

第2学年 日本の生活習慣やマナーについて、留学生にアドバイスを伝える

「書くこと」イ

1 単元の概要

(1) 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

読んだことを基に、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く。

(2) 単元の目標

ホームステイを予定している留学生が安心して来日できるようにするために、留学生からのメールを読んで要点を捉えるとともに、留学生の文化的背景や状況を踏まえた上で、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

(3) 単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・have to や助動詞 must、動名詞の特徴やきまりを理解している。 ・日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを、簡単な語句や have to や助動詞 must、動名詞などの文を用いて書く技能を身に付けている。	ホームステイを予定している留学生が安心して来日できるように、留学生の文化的背景や状況を踏まえた上で、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書いていている。	ホームステイを予定している留学生が安心して来日できるように、留学生の文化的背景や状況を踏まえた上で、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書こうとしている。

※ここでは、「書くこと」についての評価規準を示していますが、実際の指導と評価に当たっては、他の領域（「読むこと」）の評価規準も設定することが考えられます。

(4) 指導と評価の計画（全7時間）

時間	ねらい（■）、主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元の目標を理解する。 ■ホームステイを予定している留学生からのメールを読んで、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考えなどを整理し、アドバイスを書く。				「帶活動」で生活習慣やマナーに関する「話すこと【やり取り】」の言語活動（Small Talk）を設定し、事実や自分の考えなどを伝え合う。
	①留学生からのメールを読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。 ◆p.3 POINT①				
	②事実や自分の考えなどのメモを取る。また、メモを基に、アドバイスを書く。				
	③自己目標を設定する。				
2	■教科書本文を読んで、ホームステイ先である必要があることやしなくてよいことについて、事実や自分の考えなどを整理し、アドバイスを書く。				
	①留学情報サイトの記事を読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。				
	②ホームステイ先である必要があることやしなくてよいこと、それに対する自分の考え方について、ペアで伝え合う。				
	③伝え合った内容を整理し、文章を書く。				
	④文章についてグループで意見交換をする。				
	⑤意見交換の内容を踏まえ、文章を見直し、再構築する。				
3	■教科書本文を読んで、ホームステイ先でしなければならないことやしてはならないことについて、事実や自分の考えなどを整理し、アドバイスを書く。				

即して
〔記録に残す評価〕
〔指導に生かす評価〕
を行なう。
ねらいに

- ①ホームステイ先の家庭でのルールについての対話文を読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。
②ホームステイ先の家庭でしなければならないことやしてはならないこと、それに対する自分の考え方などについて、ペアで伝え合う。
※③以降は、第2時の③～⑤と同じ。

- 4 ■教科書本文を読んで、ホームステイ先で抱える悩みに対して、事実や自分の考え方などを整理し、アドバイスを書く。
①生活様式の違いによる悩みについての文章を読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。
②事実や自分の考え方などのメモを取る。また、メモを基に、アドバイスをペアで伝え合う。
③メモを基に全体の構成を考え、文章を書く。
※④以降は、第2時の④、⑤と同じ。

- 5 ■教科書本文を読んで、ホームステイ先で抱える悩みに対して、事実や自分の考え方などを整理し、アドバイスを書く。
①食生活の違いによる悩みについての文章を読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。
②事実や自分の考え方などのメモを取る。また、メモを基に、アドバイスをペアで伝え合う。
③メモを基に全体の構成を考え、文章を書く。
※④以降は、第2時の④、⑤と同じ。

- 6 ■ホームステイを予定している留学生からのメールを読んで、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考え方などを整理し、アドバイスを書く。
①留学生からのメールを読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。
②事実や自分の考え方などのメモを取る。また、メモを基に、アドバイスをペアで伝え合う。
③メモを基に全体の構成を考え、返信メールを書く。

- 7 ■グループで意見交換をする。また、メール文を見直し、再構築する。
①グループで意見交換をする。
②意見交換の内容を踏まえ、メール文を見直し、再構築する。 ◆p.4 POINT②
③学習した内容のまとめを行う。また、自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。

後日 パフォーマンステスト

〔記録に残す評価〕は行わない。ただし、ねらいに即して〔指導に生かす評価〕を行う。

2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働きかせ、言語活動を通して、「深い学び」を実現するために

(1) 単元における「深い学び」を実現している「生徒の姿」

日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考え方などを伝える相手の、文化的背景や状況などを捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、どのような内容を、どのような表現で伝えたらよいのか考え、表現している。また、友達との対話を通して、留学生にアドバイスを伝える文章の表現内容や使用言語を見直し、再構築している。

(2) 単元で働きかせる「見方・考え方」

日本の生活習慣やマナーについて、留学生にアドバイスを伝える文章を書くという言語活動において、伝える相手の文化的背景や状況などを捉え、コミュニケーションにおける目的や場面、状況等に応じて、日本の生活習慣やマナーについて、事実や自分の考え方などを形成し、再構築すること。

本事例では、POINT①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の例として、第1時間での単元終末に行なう言語活動の導入場面を、POINT②対話を通して得た気付きを基に、自分の考え方などを再構築する場面の例として、単元終末の言語活動である第6・7時を取り上げ、その具体例を紹介します。

(3) 授業の実際

POINT① コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、必然性のある言語活動を設定することで、生徒は「見方・考え方」を働かせながら、相手意識や目的意識をもって、どのような生活習慣やマナーを伝えたらよいのか、どのようなアドバイスが適切なのかなどを考えることができます。

第1時 《単元終末に行う言語活動の導入場面》

【言語活動】

留学生のEmmaは、日本でホームステイをする予定です。安心して来日できるように、Emmaからのメールを読んで、アドバイスを伝える返信メールを書きましょう。

- 留学生(Emma)からのメールを読んで、その要点を捉える。また、捉えた要点について、全体で共有する。

目的・場面・状況の提示

I got an email from my friend Emma. She lives in New Zealand. She is going to do a homestay in Japan. She is excited but also a little worried. Please read her email and write a reply.



MESSAGE

Subject: Homestay Advice

Hi! It's me, Emma. How are you?

My homestay in Japan is coming soon. I'm excited, but also a little worried. This will be my first stay in Japan, so I don't know much about Japanese customs or manners. Also, I'm not good at using chopsticks.

What customs or manners should I know about? Please tell me about them and give me some advice.

Best wishes, Emma



内容を捉えるための発問

What does Emma say in the email?

Homestay come soon. 生徒A
I'm excited. 生徒B

※生徒の発話は、誤りを修正せずにそのまま示しています。



要点を捉えるための発問

Good. She is going to do a homestay, and she is excited. What else? What is her main message?



メールの最後の部分には、Japanese customs や manners について教えてほしいと書いてあります。
アドバイスもほしいそうです。 生徒C



目的・場面・状況を把握するための発問

Great. But why does she want to know about them and ask for advice?



Because... she is a little worried. 日本でのホームステイは初めてだから、日本の生活習慣やマナーをよく知らないみたいです。 生徒B



That's right. She is a little worried. This is her first stay in Japan, so she doesn't know much about Japanese customs or manners. Now, let's think. What customs and manners do you think we should tell her about? Any ideas?



「朝ごはんを毎日食べて登校する」は日本ならではの生活習慣なのかな。 「食事の前に『いただきます』と言う」と言うはどうですか。 生徒B



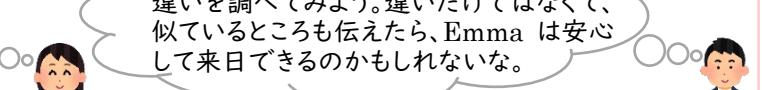
That's interesting. Now, take some notes what customs and manners you want to tell her about, and try to write a reply email to her. OK? After that, let's set your goal for this unit.



「見方・考え方」を働かせている生徒の姿

「朝ごはんを毎日食べて登校する」ということよりも、日本ならではの生活習慣を伝えた方が、Emmaにとっては参考になるのかもしれない。

まずは、日本とニュージーランドの生活の違いを調べてみよう。違いだけではなくて、似ているところも伝えたら、Emmaは安心して来日できるのかもしれない。



POINT② 対話を通して得た気付きを基に、自分の考えなどを再構築する場面を設定する。

意見交換やモデル文との比較を通して得た気付きを基に、メール文を見直し、再構築する場面を設定することで、留学生にとって参考になる内容に変更したり、それまでに習得してきた知識や技能を活用して正しく表現したりすることができます。

第6時 《単元終末の言語活動》

返信メールを書く場面

- メモを基に全体の構成を考え、返信メールを書く。

Look at your notes and think about how to put your ideas in order. Then, write a reply email using your step chart. Please check the model sentences in the textbook, too.

「見方・考え方」を働かせている生徒の姿

靴を脱ぐ shoes 玄関
no use chopsticks
→OK
no shoes in the house

生徒A のメモ

まずは、靴を脱ぐ
習慣があること
から伝えよう。
生徒A

Enjoy Japan.
生徒A のステップチャート

導入 Hi, Emma.

We take off shoes at the entrance. So, we don't wear shoes in the house. Also, you must not use chopsticks.

結び Enjoy Japan.

生徒A のメール文

第7時 《単元終末の言語活動》

意見交換をする場面

- グループで意見交換をする。

First, exchange worksheets with your group members and write down your advice. Then, give advice to each other. Please check the advice points before you give advice.

導入 Hi, Emma.

We take off shoes at the entrance. So, we don't wear shoes in the house. Also, you must not use chopsticks.
don't have to
同じような内容
→change (3文目)

内容 Enjoy Japan.

気付きを書き込んだ生徒Aのメール文

家で靴を脱ぐ生活習慣があることは伝わると思うよ。でも、2文目と3文目が同じような内容になっているから、3文目は少し変えてみてはどうかな。

“You must not use chopsticks.”では「お箸を使ってはいけない」という禁止の意味になるから、この場合は don't have to を使った方がよいと思うよ。

なるほど。では、3文目には、なぜ家で靴を脱ぐのか、その理由を書いてみようかな。それから、4文目では「お箸は使わなくても大丈夫」ということを伝えたいから、don't have to を使おう。



メール文を再構築する場面

- 意見交換の内容を踏まえ、メール文を見直し、再構築する。

Emma が安心して来日できるように、日本ならではの生活習慣やマナーについて書くことができていますね。自分の伝えたい内容が正確に伝わる表現になっているのか、英文をもう一度確認しましょう。また、メールとして送る文章なので、導入や結びの表現が適切かどうかも見直しましょう。Please check and write it again.

「見方・考え方」を働かせている生徒の姿

内容に、日本の家では靴を脱ぐ理由を付け加えよう。また、must not を don't have to に修正しよう。それから、教科書のモデル文を参考にして、導入にはアドバイスを伝えることを知らせる文を、結びには結びのあいさつ文を入れることにしよう。

導入 Hi, Emma. I'll tell you some advice.

We take off shoes at the entrance. We want to keep the house clean. Also, you don't have to use chopsticks. A fork and knife are OK.

内容 Enjoy Japan.

結び I'm looking forward to seeing you.

再構築した生徒 A のメール文

※ハイライトの部分は、意見交換を通して得た気付きを基に、内容面や言語面において文章を見直し、再構築した部分を示しています。(点線:改善した内容 実線:改善した表現)

このように、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、「深い学び」を実現するためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定するとともに、単元を通じた学習過程の中に、対話を通して得た気付きを基に自分の考えなどを再構築する場面を設定することが大切です。